

今月のトピックス

- 1 インフルエンザ注意報が昨シーズンより 5 週早く発令されました。
- 1 RS ウイルス感染症の報告が近年で最も多い状態が継続しています。
- 1 感染性胃腸炎、伝染性紅斑、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加傾向です。

全数把握の対象

【12 月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	3 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	4 件
マラリア	1 件	ジアルジア症	1 件
レジオネラ症	3 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
アメーバ赤痢	3 件	侵襲性肺炎球菌感染症	6 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6 件	水痘 (入院例に限る)	1 件
急性脳炎	3 件	梅毒	2 件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件		

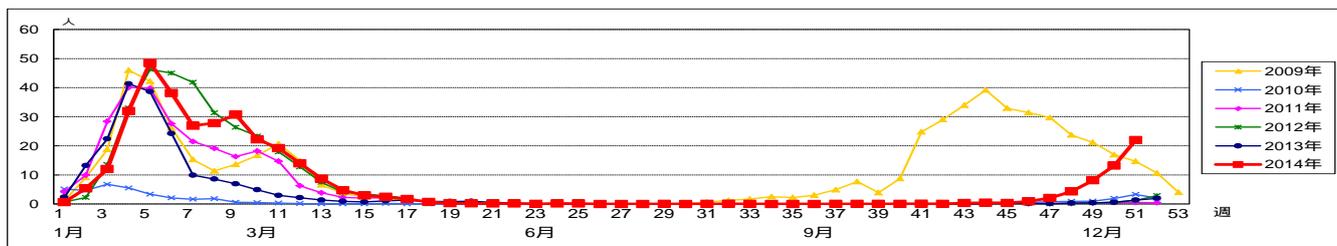
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 計 3 件の報告がありました。原因が明らかになった事例や集団感染事例はありませんでした。家庭内での 2 次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは特に念入りにきれいにすることが大切です。
- 2 マラリア: 熱帯熱マラリアの報告が 1 件あり、渡航先 (コスタリカまたはコートジボワール) での感染が推定されています。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型 3 件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。1 件はタイでの経口感染、もう 1 件は国内での同性間性的接触、残る 1 件は感染経路等不明でした。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6 件の届出があり、すべて 70 歳代以上でした。院内での集団感染等はありませんでした。
- 6 急性脳炎: 3 件の報告がありました。そのうち 2 件 (幼児および 40 歳代) では迅速検査でインフルエンザ A 型陽性でした。残るもう 1 件は学童で病原体検索中です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 2 件の報告があり、1 件は 90 歳代男性で血清型は G 群、もう 1 件は 30 歳代女性で血清型は A 群でした。どちらも感染経路等は不明でした。
- 8 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む): 無症状病原体保有者 4 件の報告があり、うち 2 件は国内での同性間性的接触、1 件はベトナムでの異性間性的接触、もう 1 件は異性間性的接触による感染で、感染地域不明でした。
- 9 ジアルジア症: 1 件の報告があり、インド (ムンバイまたはハイデラバード) での経口感染が推定されています。
- 10 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 60 歳代男性 1 件の報告がありました。
- 11 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児 1 件、学童 1 件、成人 4 件の報告がありました。幼児は予防接種歴 (13 価) が 2 回有りました。成人例は 1 件 (80 歳代) で予防接種歴 (今年 9 月に 23 価型接種) が有りました。この例では血清型は 1 型でした。他は予防接種歴が確認できませんでした。
- 12 水痘 (入院例に限る): 90 歳代の届出が 1 件ありました。予防接種歴は不明でした。
- 13 梅毒: 早期顕症梅毒 1 件、無症候期 1 件の報告がありました。どちらも国内での異性間性的接触による感染でした。

定点把握の対象

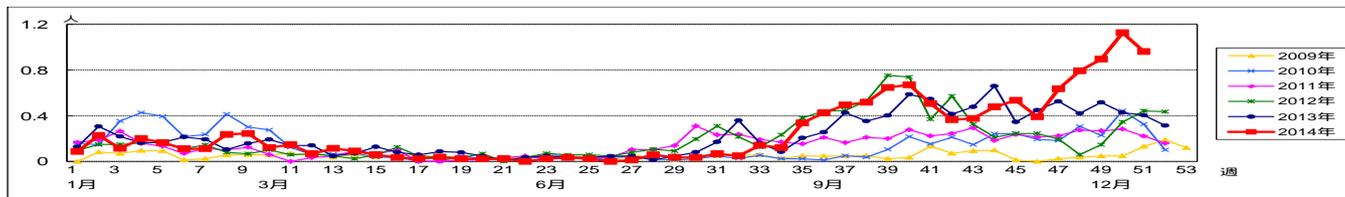
- 1 インフルエンザ: 第 50 週に市全体で定点あたり 13.22 となり、注意報が発令 (注意報発令基準値 10.00) されました。昨シーズンより 5 週間早い注意報発令です。第 51 週は市全体で 21.96 とさらに増加していま

平成 26 年 週 - 月日対照表	
第 48 週	11 月 24 日 ~ 11 月 30 日
第 49 週	12 月 1 日 ~ 7 日
第 50 週	12 月 8 日 ~ 14 日
第 51 週	12 月 15 日 ~ 21 日

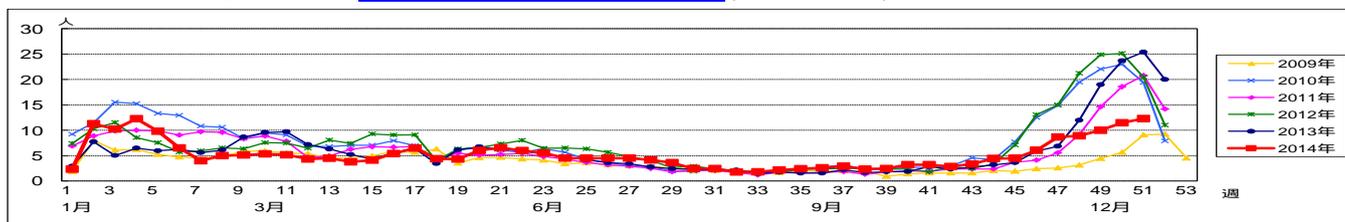
す。入院例やインフルエンザ脳症も報告されており、今後の流行に注意が必要です。流行の主体は全国と同様に AH3 亜型(A 香港型)です。 [横浜市インフルエンザ臨時情報](#) (衛生研究所)



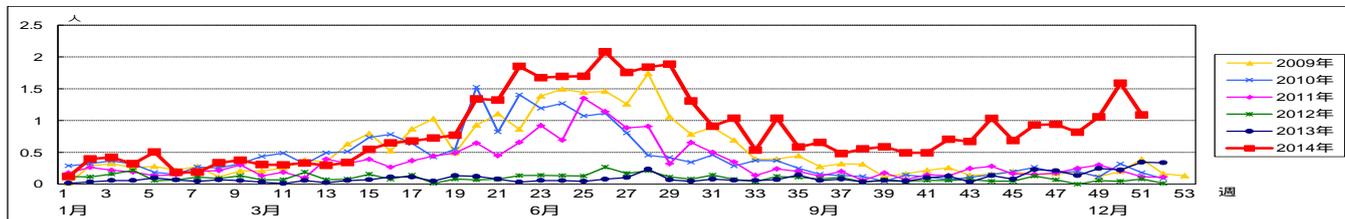
2 RS ウイルス感染症: 第 51 週は市全体で定点あたり 0.96 と今シーズン最多になり、2009 年以來最も報告数が多くなっています。



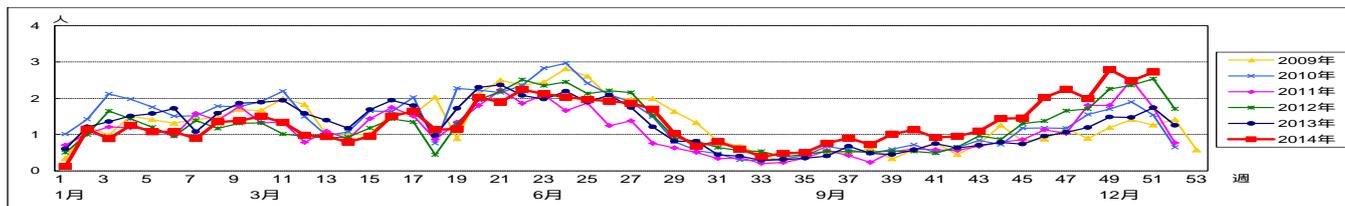
3 感染性胃腸炎: 今シーズンは例年の同時期に比べて報告数は少ないですが、第 51 週 12.28 と増加傾向です。集団感染の検体からはノロウイルスが検出されています。これからの季節にかけて増加することが予想されるため注意が必要です。 [横浜市感染性胃腸炎臨時情報](#) (衛生研究所)



4 伝染性紅斑: 8 月頃は減少傾向を示していましたが、その後下げ止まった後、最近はやや増加傾向です。



5 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第 51 週は市全体で定点あたり 2.72 と増加傾向です。例年よりやや報告数が多い状態で推移しています。



6 性感染症: 11 月は、性器クラミジア感染症は男性が 24 件、女性が 17 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 7 件、女性が 11 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 19 件、女性が 0 件でした。

7 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第 48 週 1.50、第 49 週 0.33、第 50 週 0.00、第 51 週 0.00 となっています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

8 基幹定点月報: 11 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 3 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>